

特集 子ども達の学ぶ環境を整える！

PTA本部通信

ぶらすワン

NO.2

発行 福山市立箕島小学校PTA本部
2012年(平成24年)10月24日

「ぶらすワン」はPTA情報からみなさまあとの静寂をお届けします。

会長のつぐやき

みんなで取り組む環境作り。
やる気の瞬間を
チャンスに変えたい。

猛暑の夏を乗り切り、子ども達もひとまわりたくましくなったように感じます。二学期は特にそれぞれの学年として『充実』するたぐいに大切な時期となります。子ども達の成長は、その土台として、家庭・登下校・学校での安心安全、そして学びの環境があればこそと考えます。

学びの環境といえは、私が授業参観に参加する中で、保護者の私語が子ども達を散漫にさせている場面が見られ大変残念に思うことがあります。特に授業参観などでは、子ども達は自分の成果を表現しようと気持ちを高め、学習の準備をし、授業に望んでいます。そんな子ども達の気持ちも瞬時に移り変わり、やる気が失せてしまうことがあるかもしれません。瞬間、瞬間の意欲をチャンスに変えることを大切にしたいと思えます。これから色々な行事がありま

すので、皆さまにはその旨、ご配慮いただき、子どもに目を向け、大人としての手本を示していただくことを期待します。

こうした考えのもと今回のぶらすワンでは、PTA会長研修に追加した内容の中から『親が子どもに与える影響力』『交通安全について』と『いじめの根絶とこのちの尊さ』について紹介いたします。是非、ご参考としていただき、子ども達が学び、成長する環境を整える一助となれば幸いです。

PTA会長 高橋 哲也

「親力」で決まる子供の将来

親野智可等 さん
(おやのちから) 教育評論家
教師生活23年の現場経験を
生かし、効果抜群の勉強法、
子育て、しつけ、家庭教育に
ついて具体的に提案。



子どもは四六時中、叱られている...
「近頃は子どもを叱らない親が多すぎる」などの意見が多い中、親野氏は教師時代の経験から、親たちは本当によく叱っており、毎日のように叱られる子どもがそこにいるのが現実だと言います。叱り方によっては親が子どもに与える影響力が大きいことも実感されています。ここでは『親力』を鍵に講演の内容を紹介します。

- ◆ 親が否定的(攻撃的)叱ることによる弊害
 - ① 子どもは自分に対する自信をなくす。人格否定、存在否定はタブー
 - ② 納得できず、心を閉じる
 - ③ 不信感→人間関係不信
- ◆ なぜ、親は子どもを否定的に叱ってしまうのか?
 - ① 親の『願う子の姿』=『欲』
 - ② 欲と現実のギャップに焦り、矯正しようとする
 - ③ 子どもには成長の過程で直る吸収力をもって生まれた資質があり、資質を直すには強い意志と将来を見据え直す価値を見いだすことが必要(難)
- ◆ 子どもが持つ成長する要素として
 - ① 資質 ② 環境 ③ 自由意志があり、親は環境を整え影響を与えるのが役割。①③は本人の努力
 - ◆ 親として具体的にできることは
 - ① 方法の工夫(親が手本を示す)
 - 〔例〕帰宅後カバンを放り投げて遊びにいづく子に対して
 - ↓ 玄関に大きめの箱を設け、中身を出す ↓ 宿題が見え一問だけでもする ↓ 帰宅後目に付くので宿題をする ↓ 褒める
 - ② 言葉の工夫
 - ※ 褒める ↓ 自己肯定感を持つ ↓ 気持ち溢れ人に優しくなる
 - 一日一回は必ず褒める
 - ※ 共感 ↓ 子どもは話を聞いてもらってすっきりする ↓ 聞くことにより問題の本質が見え、解決できる(N.Oは最終手段)
 - ※ 否定語(特に非難)はNG
 - ③ 子どもを比べない

福山市の交通事故の特徴

1. 飲酒事故が多い
2. 細道、交差点が多い
3. 出会い頭の事故が多い
4. 12月, 1月, 7月
水・金曜日, 朝夕の通勤時間帯に事故多発!!

取り組むべきこと

1. 自動車は良くも悪くも様々な人が運転していることを知るべし!
2. 交差点では、**急いでも必ず確認、右左!**
3. 大人はルールを守る。
子どもが見ている!!
4. 交通教育はまず家庭から!
5. 人生と命を守るヘルメット着用!!

福山市の交通事故の現状とヘルメットの重要性について

平成24年7月18日 福山市PTA連合会 小学校教育委員会
講師 茶谷 祥央 さん(福山東警察署)

ヘルメットの着用も大切だが、その前に守り、命を守れ!

子どもたち、大人のマナーを見てまねる!



いじめの根絶と「いのち」の尊さを考えるメッセージ

- 私たちは「子育ての第一責任者であること」を認識しよう。
いじめの問題の未然防止のためには家庭教育も重要な役割を担っています。家庭の中での親子の会話やふれあい、信頼に基づく厳しさをとおして、親子の人間関係づくりに努めましょう。
- 子ども達には「いじめは絶対してはいけないこと」だと教えよう。
いじめは許されない、いじめる側が悪いという認識に立ち、わが子がいじめの加害者になったときには、毅然とした態度で教えましょう。また、いじめを傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されないことを教えましょう。
- 子ども達に『いのち』の大切さを教えよう。
親から授かった命はたった一つです。この大切な命を落とすことになればみんなが悲しみます。『いのち』の大切さ・尊さすなわち、一度失った命は二度と帰ってこないことを教えましょう。わが子をいじめから守るという認識に立ち、常日頃から、子どもとのコミュニケーションづくりに努める中、悩みを親身になって受け止め、子どもが発する「いじめのサイン」を見逃さないようにしましょう。
- いじめの早期発見・早期対応に努めよう。
いじめは「どの子どもにも、どの学校にも起こりえる」という認識のもとに早期発見に努めましょう。いじめが生じた際には、学校や関係機関などに相談するなど、「速やかに対応」しましょう。
- 可能な限り「学校行事」や「地域行事」に参加しよう。
親子で学校や地域行事に参加し、子どもの生活の様子や交友関係を知り、子どもとの会話を増やしましょう。また家庭、学校、地域社会のすべての関係者が一体となった取り組みをしましょう。